

もくじ

- ゆき じょおう
雪の女王

ゆき じょおう
雪の女王

げんさく
原作： どうわ
アンデルセン童話

イラスト： アカミツキ

へんしゅう
編集： YellowBirdProject

つめ かせ ふ そら ゆき ま はじ くに
冷たい風が吹き、空に雪が舞い始めました。この国
では吹雪の日は、『雪の女王』が子どもたちを連れ去り
に、山から降りてきているのだと言われていました。
なので、決して子どもたちだけで、外に出ては
いけないのです。

ひ おとこ こ おんな こ へ や あそ
その日、とある男の子と女の子が、部屋で遊んで
いました。男の子の名前は『カイ』。女の子の名前は
『ゲルダ』です。二人はおさななじみで、いつも一緒に
遊んでいました。

ゆき や かせ ふたり そと あそ
雪が止み、風がおさまってきたので、二人は外に遊び
に出かけました。雪山をそりで滑っている時、急に
カイがそりを止めました。

「どうしたの、カイ？」

「わからない。今、だれかに呼ばれた気がしたんだ。
おんな ひと こえ き
女の人の声だったような・・気のせいかな」



それからまたそりを^{はし}走らせましたが、カイの^{ひょうじょう}表情は、ずっとくもったままでした。

その翌日、^{よくじつ}突然、^{とつぜん}カイが^{すがた}姿を^け消してしまいました。
^{まち}町のみんなは^{ひっし}必死に^{さが}カイを探しましたが、どこを
^{さが}探しても、^みカイは^{みつかり}見つかりませんでした。そのうちに
^{こおり}カイは、^{かわ}氷の^おはった川に^お落ちたのだとか、クマに
^た食べられてしまったのではないかと^{なが}のうわさが流れて
^{ふじ}きましたが、ゲルダは、^{ふじ}きっとカイが^{ふじ}無事であると
^{しん}信じていました。

^{すうじつご}数日後、^{まち}町のみんなが^{ねしず}寝静まった頃、^{ころ}ゲルダは^{ひとり}一人で
^{まち}町を^ぬ抜け^だ出しました。

ゲルダは^{さが}カイを探して、^{なんにち}何日も^{ある}歩き^{つづ}続けました。

